

令和5年2月22日  
東京管区気象台

## 「関東甲信・北陸・東海地方の気候の変化」を公開しました

関東甲信・北陸・東海地方各都県における気候の「これまでの変化」と「これからの変化」について、最新の情報をホームページに公開しました。気候変動対策の基礎的な資料として、ご活用ください。

近年の気温上昇や大雨頻度の増加など、気候変動の影響は既に現れており、この傾向は今後さらに深刻化すると予測されています。

東京管区気象台では、文部科学省及び気象庁が公表した「日本の気候変動2020\*<sup>1</sup>」等の最新の知見にもとづき、関東甲信・北陸・東海地方の各都県における気候の「これまでの変化」と「これからの変化」を評価した結果をホームページ\*<sup>2</sup>に公開しました。今後のさまざまな気候変動対策の基礎資料としてご活用ください。

内容の詳細は以下のとおりです。

### ○これまでの変化

各都県内の観測地点ごとに、2021年までの観測データを用いて、年平均気温、真夏日・熱帯夜の年間日数、さくらの開花日等の変化傾向を分析しました。

東京（北の丸公園）の場合、年平均気温は過去100年あたり2.6℃の割合で上昇しています（別紙：図1）。

### ○これからの変化

以下の二つのシナリオについて数値シミュレーションを行い、20世紀末から21世紀末までにかけての都県内を平均した気温、真夏日・熱帯夜の年間日数、雨の降り方についての変化を評価しました。

- ・ 4℃上昇シナリオ：現在から追加的な緩和策を取らなかった世界に相当。
- ・ 2℃上昇シナリオ：パリ協定の2℃目標が達成された世界に相当。

東京都では、4℃上昇シナリオの場合、年平均気温は約4.2℃上昇すると予測されています（別紙：図2）。

\* 1 文部科学省及び気象庁「日本の気候変動2020」

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

\* 2 「関東甲信・北陸・東海地方の気候の変化」

<https://www.data.jma.go.jp/tokyo/shosai/umi/kikouhenka/index.html>

問合せ先：東京管区気象台 気象防災部 地球環境・海洋課 担当 大森  
電話：042-497-7219

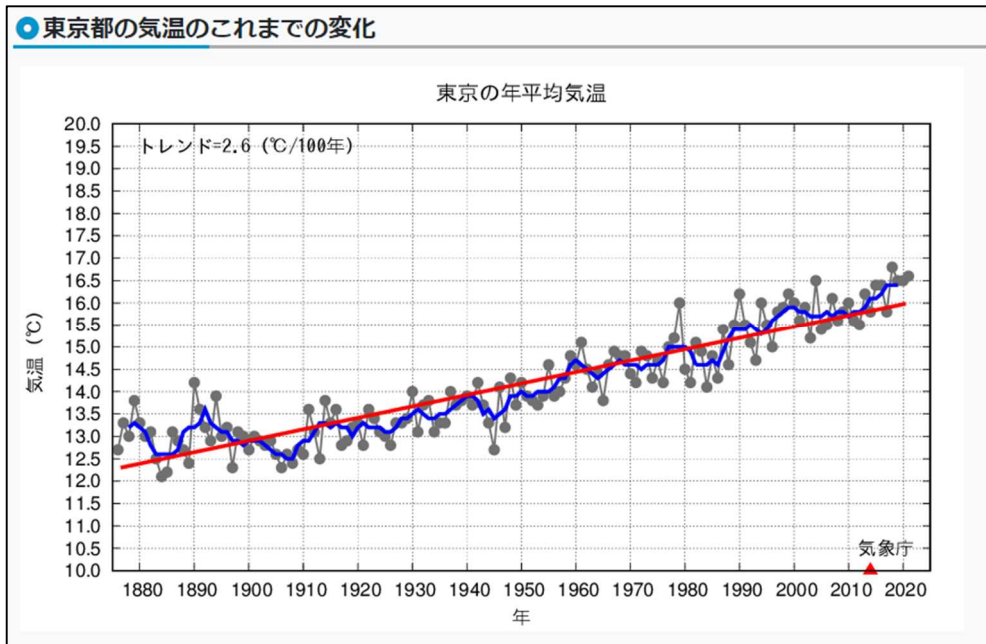


図1：東京における過去140年余の年平均気温の変化の様子。黒い点が各年の観測値で、青線がその5年移動平均、赤線は線形回帰で求めた長期変化傾向（トレンド）を示す。赤線の気温上昇の割合は100年に2.6°Cとなっている。

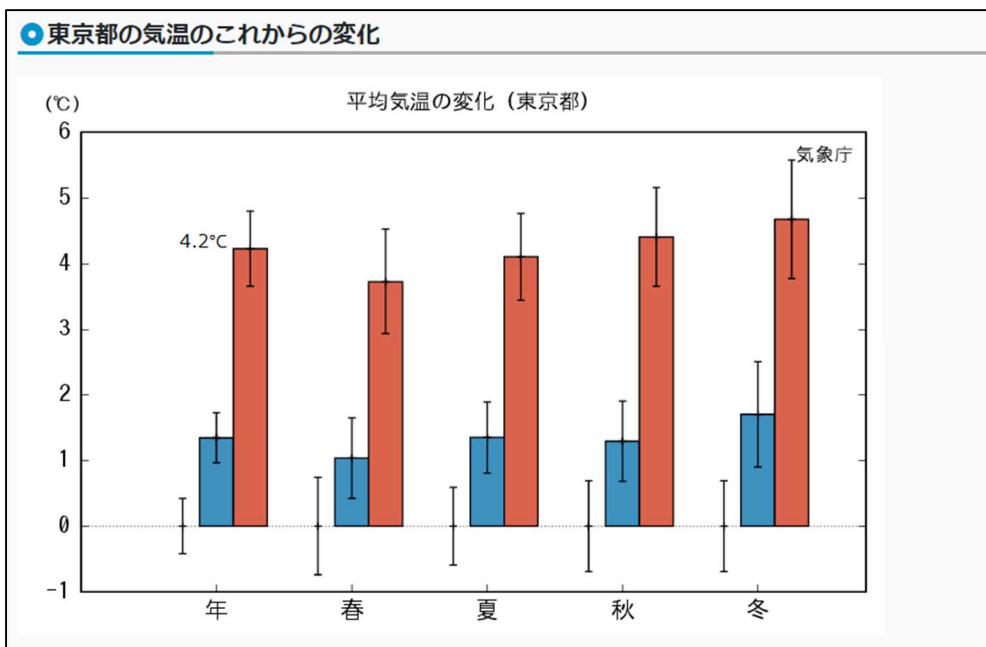


図2：東京都において今後予測される平均気温の変化（20世紀末と21世紀末の差）を年単位と季節ごとに示したものの。青い棒が2°C上昇シナリオ、赤い棒が4°C上昇シナリオに対応。細い縦線はそれぞれの予測シナリオの年ごとのばらつき具合。青い棒の左の細い縦線は、20世紀末時点の年ごとのばらつき具合を示す。